

ぱれっと

2013
1月
No.161



サポセン事業報告：考えるテーブル 支援のかたち

P 2~3 **特集** | 被災地からの情報発信をデザインする

P 4 **サポセン事業報告** | サポセンサロン「フューチャーセンターのはじめかた。」

P 5 **シニア事業報告** | シニア専門相談・シニアサロン

P 6 **市民活動サポートセンターからのお知らせ**



支援のかたち

被災地からの情報発信をデザインする

震災から2年が過ぎつつある被災地仙台。被災者が避難所から仮設住宅へ移り住んでいき、県外からの支援者の波が落ち着くなど状況はどんどん変化しています。サポセンでは、そんな被災地の状況を全国や市内に向けて発信してきました。その中で、9月に実施したサポセンサロンをきっかけに在仙NPOや企業・他施設と協力し、市民とともにこれからの支援のかたちを考える場を作ることとなりました。今回は開催までの経緯のご紹介と、実際の事業の様子をご報告します。

9月18日(火) サポセンサロン4「情報発信力を高める!情報交換会」



▲マスコミからミニコミ、紙媒体からWEBまでと、扱う媒体も多様な14名の方々にお集まりいただき、活動を通じて感じること・課題だと思うことを共有し意見交換を行いました。

今年度、被災地支援を行っている方・団体が集える場として開催しているサポセンサロン。9月に被災地の情報発信をテーマに開催した時、情報交換の中で、情報発信する側の共通の課題として、以下の3点が浮かび上がってきました。

- ① 発災からの時間経過により、情報発信のかたちもこれまでとは違う、次の段階へ移行する必要がある。
- ② 情報発信を行う団体同士の横の連携が欲しいが、それを構築していく場がない。
- ③ 編集・デザインの技術や著作権・肖像権に関する知識など、情報発信する上で必要な知識や技能の共有をしたい。

後日、サポセンサロン担当スタッフミーティングの中で、これら3点を解決する場を作ろうという結論に至り、再度“情報発信”をテーマにした情報交換・交流ができるような会を設けることにしました。

サポセンサロンから発展したこの会は、せんだいメディアテークと協働で「考えるテーブル」として、12/21に実施することになりました。

11月20日(火) 「考えるテーブル 支援のかたち」企画会議



▲企画会議には、被災地で情報発信に関わるリーダーたちと、メディアテークスタッフ・サポセンスタッフが参加しました。

サポセンサロン参加団体に再びお集まりいただき、9月のサロン以降の取り組みや感じていることなどを共有した後、12/21のテーマについて深く掘り下げ、企画を練りました。「ゲストや参加者にこんなことを聞いてみたい」「こうしたら良いのでは?」とグループセッションの内容や進め方について、どんどんアイディアが出てきました。

企画会議メンバー (団体名50音順)

- ・河北新報社 八浪英明さん ★
- ・NPO法人20世紀アーカイブ仙台 佐藤正実さん ★
- ・西原新聞 佐藤研さん ★
- ・みらいん編集部 岡崎裕子さん
- ・せんだいメディアテークスタッフ
- ・サポセンスタッフ

(★印…12/21のグループセッション進行役)

考えるテーブル

支援のかたち～被災地からの情報発信をデザインする～

2012年12月21日(金) @せんだいメディアテーク1Fオープンスクエア

冒頭のゲストトークでは、NPO法人HUG代表理事の本間勇輝さんに、これまでの活動紹介も交えながら、風化や忘却にどのように対応するか、これからの支援のかたち・情報発信のあり方についてお話いただきました。

ゲストトーク

NPO法人 HUG 代表理事 本間 勇輝さん



震災関連のメディア報道は激減しており、自ら情報を取りに行くようなごく一部の関係者のみが興味を持っているような状況で、東京と被災地を行き来していると大きな隔たりを感じます。風化に対抗するには、何かを変えていかなければいけないでしょう。例えば、「復興」「被災地」だけで受け手の興味を引くことはもう難しくなっています。しかし、それに何かを加えたり、違う文脈を用いることで被災地の素晴らしい取り組みを伝えることができます。

今東北で起きているのは単なる復興ではなく、日本の未来をつくる社会変革です。タイミングや新しさをアピールできれば、マスメディアと絡めることは可能です。また、「この人がカッコイイ、面白い」と、人・ストーリーに注目しスターを作ったり、関心が高い方々へアプローチするのも手だと思います。「受け手の彼らは何を聞きたいのか？」と探るところから始めて、「自分が伝えたいこと」とマッチングしながらコンテンツを作ると良いのではないのでしょうか。

世の中を良くするために頑張っている人や団体を、情報発信等のコミュニケーション分野で手助けする「NPO法人HUG」。震災後、復興のために頑張る人々を対象とした業界新聞「東北復興新聞」を発刊し、関係者間の情報共有を促進するとともに、被災地外へ情報を届け継続したより良い支援の実現を目指している。

団体HP <http://h-u-g.jp/>

※ゲストトークの部分は、「3がつ11にちをわすれないためにセンター」のサイトよりアーカイブをご覧ください。アドレスはこちら
→<http://recorder311.smt.jp/movie/24761/>

グループセッション

2つのテーマに沿ってグループを作り、「自分ならどのように情報発信するか」を、参加者の皆さんに考えていただきました。グループセッションの中で出てきた“気づき”を一部ご紹介します。



テーマ1 「風化と被災地からの情報発信」

- 受け手が元々持っている興味の対象から入り、震災・被災地へと関心をつなげていく。
- 情報発信者も復興の担い手となり活動しつつ、発信していく。
- 我が事化＝自分のこと、自分と近いもの・関連性があるものと捉えること。震災を「ひとつとではない」と捉えてもらう。被災者を身近に感じてもらう。
- 一方的な発信ではなく、伝える相手を想像する。相手を知ることから始めよう。



テーマ2 「被災地コミュニティ内での情報発信・記録とその継承」

- 避難により、コミュニティがバラバラになってしまった。隔てている壁を壊すために情報を伝えていく。
- 「辛かった」よりも、「楽しみ・これから」を伝える。
- 受け手からの反応がないからといって、情報が届いていないわけではない。継続が大事。
- 記録を、どのように活用していくか。また、防災教育など、“活用していくこと”が大事。

サポセン 事業報告

サポセンでは、参加者同士の情報交換や学びあいの場を通して復興の今を知り、社会にある資源（人材、物資、資金、ノウハウ、情報など）を被災地域で活動する方々につなげる企画、「サポセンサロン」を開催しています。



復興の今を知る場 サポセンサロン

「フューチャーセンターのはじめかた。」編

11月27日「フューチャーセンターのはじめかた。」と題して、フューチャーセンターという新しいワークショップの手法の説明会を行いました。今、被災地支援の団体の多くが「未来のまちづくり」に取り組んでいる中、実践的な話し合いの進め方を模索しています。今回は被災地支援を行っている団体や、支援に関心のある個人の方向けに、サロンを開催しました。

講師としてお招きしたボブ・スティルガーさんは、世界各地で25年に渡りコミュニティ形成を支援するNPOで活動してきました。2010年より日本でも活動を始め、東日本大震災の復興に向けたコミュニティ形成に活かすため岩手県大槌町、福島県南相馬市など東北の各地でフューチャーセンターの紹介をしています。

フューチャーセンター || 「場」をつくる事

未来に向けた創造的なアイデアを生み出すため、自由な発言ができる雰囲気を作ります。そんな雰囲気があれば、どんな場所でも開けます。

フューチャーセンター || 「対話」をする事

場集った人同士の対話により、どうしたいのか、何が必要なかを現して、『ホスト』と呼ばれる人が集約し、確認し、次のステップに必要な対話を次々に続けていきます。



ボブ・スティルガー氏



参加者の様子

参加者からは、「話し合いの技術ではなく、本質の話聞くことが出来て良かった」や、「今抱えている課題にこの方法を取り入れたい」、「フューチャーセンターを継続的に開催してほしい」などのご意見をいただきました。

一つの課題を多様な人々によって話し合い、解決に向けてゆくこの手法は、具体的な課題に対して、何度か取り組みを行うことが必要です。

一回だけの説明では少し物足りない方のため、今後も説明会や実践の場を提供したいと思います。

(藤原航)

＜2012年度実施事業＞

シニア 事業報告

2012年度から、シニアセンターは、サポートの相談窓口とひとつになり、市民活動やシニア活動の総合窓口として、今までより一層充実した情報を提供し、利用者の皆さんに、ご利用いただいております。



■シニア専門相談

- 7月14日(土)相談者5人
相談員：藤田佐和子さん
NPO法人市民福祉団体全国協議会 復興支援仙台事務所
- 10月13日(土)相談者4人
相談員：森山英子さん
仙台傾聴の会
- 12月15日(土)相談者4人
相談員：清水福子さん
NPO法人あかねグループ
- 2013年2月16日(土)
相談員：谷津秀治さん
SUN英語愛好クラブ



■出前相談

- 6月12日(火) 9月15日(土)
12月11日(火) 3月16日(土)
仙台市民図書館(年4回)
- 10月14日(日)
泉社会福祉センター相談コーナー
- 11月10日(土)
SYCふらっと主催 情報屋台村
- 11月27日(火)
泉社会福祉センター団体相談会



■シニアサロン

- 8月31日(金) 参加者13人
お手玉サークル「たんぼぼ」
代表 菊池治枝さん
- 11月17日(土) 参加者14人
「みやぎシルバーネット」
編集発行人 千葉雅俊さん

じっくり丁寧に

シニア専門相談

おおむね55歳以上で、これから活動を始めてみたい方を対象とした個別相談会です

1回目は、NPO法人市民福祉団体全国協議会の藤田佐和子さんの「高齢者や障害者の生活支援活動や仮設住宅でのボランティア活動に参加してみたい方」向けの相談会。相談者は、とても意欲的で熱い思いを持ってボランティア活動への参加を希望され、それぞれの確かなアドバイスや情報提供を得ることができました。結果、得意な楽器演奏の特技を生かした方などが実際に仮設住宅でボランティア活動に参加することにつながりました。

2回目の相談員は、仙台傾聴の会代表森山英子さん。震災後は特に傾聴活動が注目され、関心の高い活動だということが伺えます。相談者は、個々がすでにもっているスキルを活かしながら、次のステップへ一歩踏み出すきっかけを得たようです。

3回目は、配食・介護のボランティア活動を精力的に行っているあかねグループの清水福子さんを相談員にお迎えしました。そして今年度最後となる2月は、特技を活かし地域で活動してみたい方、何かを始めてみたい方を対象に相談会を開催予定です。(P6のお知らせをご覧ください)その他、市民図書館などでも出前相談を行っていますので、ご利用ください。

自分を生かすヒントに

シニアサロン

退職後に、地域や社会の役に立ちたいと考えているシニア世代のための交流の場です

毎回、得意なことや、好きなことを生かして地域貢献されている方をお招きして、活動を始めたきっかけや活動の様子をお伺いしています。

最初のゲストは、お手玉パワーと楽しさを伝えようと、お手玉サークル「たんぼぼ」を主宰している菊池治枝さん。得意なお手玉の技を教える喜びに魅せられた菊池さんには、被災された方々に笑顔と元気を与えたいと、仲間とともにやっている山元町仮設住宅での活動などをお話いただきました。どんな小さなことでも良いので得意なことを継続するのが成功の秘訣と、実際の体験から得たアドバイスをいただきました。

もうお一人は、シニア世代のためのフリーペーパーを編集発行している千葉雅俊さん。人生の先輩たちに取材を通してお会いし大いに刺激を受け、それがとても勉強になったとのこと。いろんな「場」に積極的に出かけ「情報」を得て「仲間」をつくりながら活動の幅を拓けてくださいと、参加した皆さんにエールを送っていただきました。

シニアセンターでは、今後も定年後の人生再設計の「はじめの一步」を応援させていただきますので、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

市民活動サポートセンターからのお知らせ

2/9 (土)	NPOいろは塾 90分でNPOの基礎を学ぼう!
午後2時 ～午後3時半 講座	震災復興支援活動で活躍するNPOの活動事例を紹介するとともに、NPOの基礎についてお話します。最後のサポセンガイドツアーもお楽しみに。 会場：市民活動サポートセンター4階 研修室5 参加費：無料 定員：15名(先着順) 申込：1月7日(月)午前9時から電話または直接市民活動サポートセンターまで
2/22 (金)	2012年度 復興支援活動報告会
午後2時 ～午後5時 イベント	仙台市を中心に復興支援活動を行っている団体のこの1年の活動を報告いただき、これからの復興支援活動の在り方を考えます。 会場：市民活動サポートセンター6階セミナーホール 参加費：無料 定員：50名(先着順) 対象：復興支援活動に関心のある市民の方々 申込：2月6日(土)午前9時から電話または直接市民活動サポートセンターまで
2/16 (土)	シニア活動支援センター 専門相談
午前10時 ～午後4時 相談	好きなことや特技を活かして、地域の活動や社会貢献をしてみたい方の個別相談会！ ■専門相談員：SUN英語愛好クラブ 講師 谷津 秀治さん 会場：市民活動サポートセンター3階 研修室1 参加費：無料 対象：おおむね55歳以上の方5人程度(グループも可,先着順,相談時間は1人・1組50分程度) 申込：2月6日(土)午前10時から電話または直接シニア活動支援センターまで。 TEL:022-217-3983

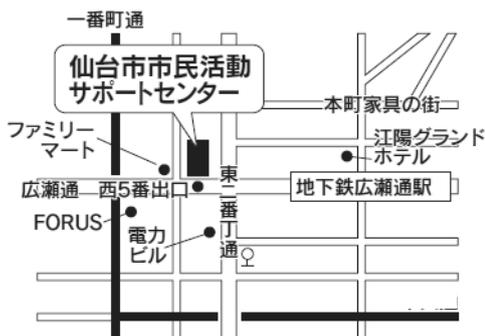
■ 仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

■ 仙台市シニア活動支援センターとは

これまで同様、シニア世代の地域・社会参加活動を応援していきますので、お気軽にお問合せください。

■ 案内図



○当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車で来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

注) 路上駐車・駐輪は、周辺の迷惑となりますのでおやめください。

○ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

[最寄のバス停] 電力ビル前、商工会議所前

[地下鉄] 広瀬通駅下車、西5番出口すぐ

■ 開館時間

平日：午前9時～午後10時・日祝：午前9時～午後6時

■ 休館日：毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日)及び、年末年始(12/29～1/3)

■ 相談・つながるサロンとは

平成24年より、これまで別々だった市民活動サポートセンターとシニア活動支援センターの相談窓口を3Fに集約し、じっくりご相談いただける環境を整えました。

このようなご相談おまかせください

- ・市民活動の立ち上げ、法人格の取得
- ・団体運営、組織運営
- ・復興支援活動
- ・シニア活動、セカンドライフ相談 など

相談時間

- ・平日：午前10時～午後8時
- ・日曜・祝日：午前10時～午後5時

編集後記：

サポセンの仕事始めは1月4日、とても寒い朝でした。サポセンは今年も「自分たちのまちや社会をもっと良くしたい」「復興に役立ちたい」という思いを持った方々を応援していきます。本年もどうぞよろしく願いいたします。(スタッフ一同)

発行：仙台市市民活動サポートセンター

仙台市シニア活動支援センター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

HP <http://www.sapo-sen.jp>

ブログ <http://blog.canpan.info/fukkou/>

発行日：2013年1月11日

編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人：小松州子 菅野祥子 太田貴 葛西淳子 松村翔子

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間：2010年4月1日～2015年3月31日]